静内ロータリークラブが エゾヤマザクラを寄贈・植樹

静内ロータリークラブ（四ツ屋義道会長）が、11月9日に環境保全活動の一環としてエゾヤマザクラの成木7本を町へ寄贈し、二十間道路桜並木で植樹を行いました。

同会は、平成29年から二十間道路桜並木の植樹事業を継続しており、今回を含めてこれまで27本のサクラを寄贈しています。

四ツ屋会長は「桜並木は町の大事な観光資源であり、将来に渡って残していくため、今後もサクラの寄贈を続け、景観を良くしていきたい」と話しました。

降納された学校旗

慣れ親しんだ校舎に別れ 山手小学校閉校式

町立学校の再編整備により、令和5年3月に閉校する町立山手小学校の『閉校式』が11月12日に同校で挙行され、在校生や保護者など約180人が参列しました。

山手小学校は、昭和54年に開校し、開校時は18学級617人の児童が在籍しましたが、少子化などにより児童数が減少し、4月に静内小学校および東静内小学校と再編します。

閉校式では、山田健世（けんせい）児童会長が「楽しく学校生活が送られたことを皆さんに感謝し、残りの時間をみんなで大切に過ごしたい。ありがとう山手小学校」と述べました。

150年の節目を祝う 高静小学校150周年記念式典

町立高静小学校創立150周年記念事業実行委員会（津山浩委員長）主催の『創立150周年記念式典』が11月19日に同校で挙行され、児童や保護者など約200人が参列しました。

町内の学校で最も歴史の長い高静小学校は、明治4年に私塾『益習館（えきしゅうかん）』として東静内に設立し、明治12年に高静小学校へ名称変更。明治41年に現在地に移転しています。

式典では、実行委員会より新しい学校旗などの目録が贈呈されたほか、5年生が学校の好きなところを描いた絵や6年生による合唱が披露され、節目を祝いました。

6年生による合唱

7月に撮影された全校児童による人文字

歌声や演奏が響き渡る ミュージックフェスティバル

陸上自衛隊静内駐屯地と町自衛隊協力会（大野克之会長）が、11月27日に公民館で『ミュージックフェスティバル2022』を3年ぶりに開き、約200人が来場しました。

会場では、陸上自衛隊第7音楽隊による「ディズニー・メドレー3」など迫力ある8曲の演奏が披露されたほか、合唱団Vol（ボル）（新冠町）による心に響く爽やかな合唱や浦河高等学校吹奏楽局による息の合った演奏により、曲が終わるごとに大きな拍手が沸き起こりました。

陸上自衛隊第７音楽隊

浦河高等学校吹奏楽曲

合唱団Ｖｏｌ

日高を代表する 特産品づくりに向けた講演会

町主催の『日高を代表する特産品づくりに向けた講演会』が11月25日に公民館で開かれ、約50人が参加しました。

町では、静内農業高校や各産業団体、町内事業者などと連携し、『静農ブランド開発促進プロジェクト』を推進しており、地域資源を活用した当町ならではの特産品開発に向けて、商品企画開発やブランド力向上などを目的に開催しました。

講演では、㈱オフィス内田の内田勝規（かつのり）会長により、全国各地の成功事例や地域の財産に付加価値を付けることなどが話され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

100万人目の入館者となった田中さん（右から２人目）

静内温泉リニューアルオープン後 入館者が100万人を達成

平成25年にリニューアルオープンした町民保養施設『静内温泉』で、11月24日にリニューアル後の入館者が100万人を達成してセレモニーが開かれました。

セレモニーでは、100万人目の入館者となった田中里枝（さとえ）さん（静内東別）へ花束や入浴券などの記念品が贈呈され、くす玉が割られると大勢の入館者から拍手が贈られました。

田中さんは「100万人目だと聞いて驚きました。夫婦で毎日のように利用し、一日の疲れを癒す大好きな温泉です」と笑顔で話しました。

みついし牛枝肉共励会で
森誠（まこと）さんが2度目の最優秀賞

みついし農業協同組合（澤田祐喜代表理事組合長）主催の黒毛和牛肉の品質を競う『第18回みついし牛枝肉共励会』が11月30日に東京都中央卸売市場食肉市場で開かれ、出品された36頭の中から森誠さん（三石美野和）出品の『行冥（ぎょうめい）』が最優秀賞を受賞しました。

12月1日には同組合で褒章授与式が行われ、2度目の最優秀賞を受賞した森さんは「賞をいただけたのは、全体的な肉のバランスが良かったためだと思います。今後も和牛センターと協力しながら、町内の肥育牛を増やしていきたいです」と述べました。

地域の観光振興に寄与した
出口組に知事感謝状贈呈

地域の観光振興に寄与した観光ホスピタリティ実践者として、㈱出口組（出口直沖代表取締役）に北海道知事感謝状が贈られ、12月6日に生田日高振興局長より伝達されました。

同社は、二十間道路桜並木の保護のため、平成25年から10年間にわたり、エゾヤマザクラの成木を毎年7本ずつ寄贈・植樹し、魅力ある町の景観形成に貢献されました。

出口社長は「地域の方に喜んでいただくとともに、桜並木の拡充のため植樹を続けてきました。今後もさらに観光でおもてなしができるよう頑張りたい」と述べました。

夢いっぱいのクリスマスに向けて
親子で楽しくリース作り

教育委員会主催の『としょかんフェスティバル・クリスマス』が12月11日に総合町民センターで開かれ、親子連れなど40人が参加しました。

会場では、クリスマスにちなんだ絵本の読み聞かせやパネルシアターのほか、中心を切り抜いた紙皿に長さをそろえた色紙を貼り付け装飾した『クリスマスリース』を作りました。

参加した児童は「リース作りは難しかったけど面白かった。もう1回作りたい。おうちのドアかクリスマスツリーに飾りたいです」と笑顔で話し、参加者は親子で楽しい時間を過ごしました。